会議報告

「テクノ・オーシャン'94国際シンポジウム」報告

村 田 武一郎*

1. テクノ・オーシャンの概要

テクノ・オーシャンは海洋関連の科学技術と情報の交流を目的とする我が国で唯一定期的（隔年）に開催される国際コンベンションである。

過去4回に亘って開催されたテクノ・オーシャンでは、国際シンポジウムにおいて専門分野ごとの科学技術・情報の交換が展開され、国際見本市においては先端的科学技術とその成果品の展示を通じて国際的な商取引と活発な情報交流が行われた。その学術・産業の交流範囲は、海洋の資源開発から環境資質開発、また海洋空間の多様な資源と資質を活用した地域振興から地球環境保全などの政策や技術開発を含む広範な領域となっている。

第5回となるテクノ・オーシャン'94は、1994年10月26日～29日の4日間、神戸国際展示場において、「海は生命と文化のインキュベータ」をテーマに、国際シンポジウムと国際見本市の両輪をもって開催された。以下、国際シンポジウムについて紹介する。

2. 国際シンポジウムの概要

国際シンポジウムは、12分野にわたる36のテクニカル・セッション（表1）と招待講演により構成され、応募論文数は165編、招待講演論文数は9編であった。参加者数は約400名を数え、意欲的な発表と熱心な質疑応答が行われた。

12分野のうち環境技術との関わりが特に深い分野としては、「F. 生態系とミチゲーション」、「G. 海域環境創造」、「L. 大阪湾ベイエリア開発と環境創造」等があげられる。以下に、これらの分野における代表的な発表例を示す。

表1 テクニカル・セッションの分野と名称

分 野	セッション名
A. 海洋調査・計測	A 1 A 海洋調査・計測①
	A 1 B 海洋調査・計測②
	A 2 A 海象
	A 2 B 海洋と地球環境
	A 3 A 海洋流体力学
	A 4 A 海洋計測機器①
B. 海洋材料・機器開発	A 4 B 海洋計測機器②
	B 1 A 海洋材料①
	B 1 B 海洋材料②
	B 2 A 海洋構造物の応答・制御
C. 海洋資源開発	B 3 A 海域施工技術
	C 1 A 鉱物資源①
	C 1 B 鉱物資源②
D. 深海ロボット	C 2 A 生物資源
	D 1 A 深海ロボット
E. 浮体システム	E 1 A 浮体システム①
	E 1 B 浮体システム②
F. 生態系とミチゲーション	F 1 A 生態系とミチゲーション①
	F 2 B 生態系とミチゲーション②
G. 海域環境創造	G 1 B 閉鎖性海域の環境創造の理念と方針①
	G 1 A 閉鎖性海域の環境創造の理念と方針②
	G 3 A 海域環境汚染①
	G 3 B 海域環境汚染②
H. 海域空間利用	H 1 A 海域空間利用①
	H 1 B 海域空間利用②
I. 親水空間の創造	I 1 A 親水空間の創造
J. 海洋ネットワーク	J 1 A 船舶の操船・安全
	J 1 B 船舶の構造・性能①
	J 1 C 船舶の構造・性能②
	J 2 A 次世代船舶①
	J 2 B 次世代船舶②
K. 海洋文化	J 3 A 国際貢献ネットワーク
	K 1 A 海洋文化
L. 大阪湾ベイエリア開発と環境創造	L 1 A 大阪湾の将来像①
	L 1 B 大阪湾の将来像②
	L 2 A 大阪湾の環境評価

3. 代表的な発表例

3. 1 生態系とミチゲーション

- ①沿岸の生態系の環境浄化機能
- ②海岸保全施設と周辺生態系について
- ③海岸保全施設が生態系に及ぼす影響
- ④高分子材料を用いた海水浄化の基礎的研究

*テクノ・オーシャン'94国際シンポジウム事務局
社団法人国際海洋科学技術協会関西事務所長
Buichiro MURATA

写真 国際シンポジウム風景

写真 国見本市会場風景

⑤人工干潟造成によるミチゲーション技術の研究

3. 2 海域環境創造

- ①閉鎖性海域における環境創造の理念と課題
- ②海域における環境共生新都市モデルの創造
- ③世界におけるミチゲーションシステムの動向と課題
- ④ミチゲーションの我が国への導入について
- ⑤ミチゲーション技術の日本への導入

3. 3 大阪湾ベイエリア開発と環境創造

- ①大阪湾ベイエリア大気環境の動向と新たな環境保全戦略
- ②持続可能な我が国大都市圏沿岸開発手法の確立に関する一考察
- ③大阪湾の埋立開発の影響と環境改善について
- ④海域環境計画から見た沿岸開発構想の評価

4. 今回の国際シンポジウムの特徴

代表的な発表例に見るように、今回の国際シンポジウムの特徴は、従来からの海洋開発に関する研究と技術開発に加え、生態系との関わり、沿岸域の環境計画

等へのアプローチについて意欲的な発表が成されたことである。

環境技術の面では、閉鎖性海域の環境技術開発は緒についたばかりである。このため上記には、そのコンセプトを示した論文が多い。閉鎖性海域においては、コンセプトの段階において十分な議論を行い、慎重に環境創造を進めていくことが求められていることから、時宜を得た国際シンポジウムであったと思われる。

5. お わ り に

テクノ・オーシャンは、今後、我が国のみならず、アジアにおける最大の海洋科学技術コンベンションとして発展していくことが予定されている。次回の開催は1997年1月である。

なお、論文集(¥20,000、A4版、3分冊、頁数合計1,059頁)に若干の余部がありますので、必要な方は、TEL (06) 203-6061 IBCフォーラム内テクノ・オーシャン'94国際シンポジウム事務局へご連絡ください。